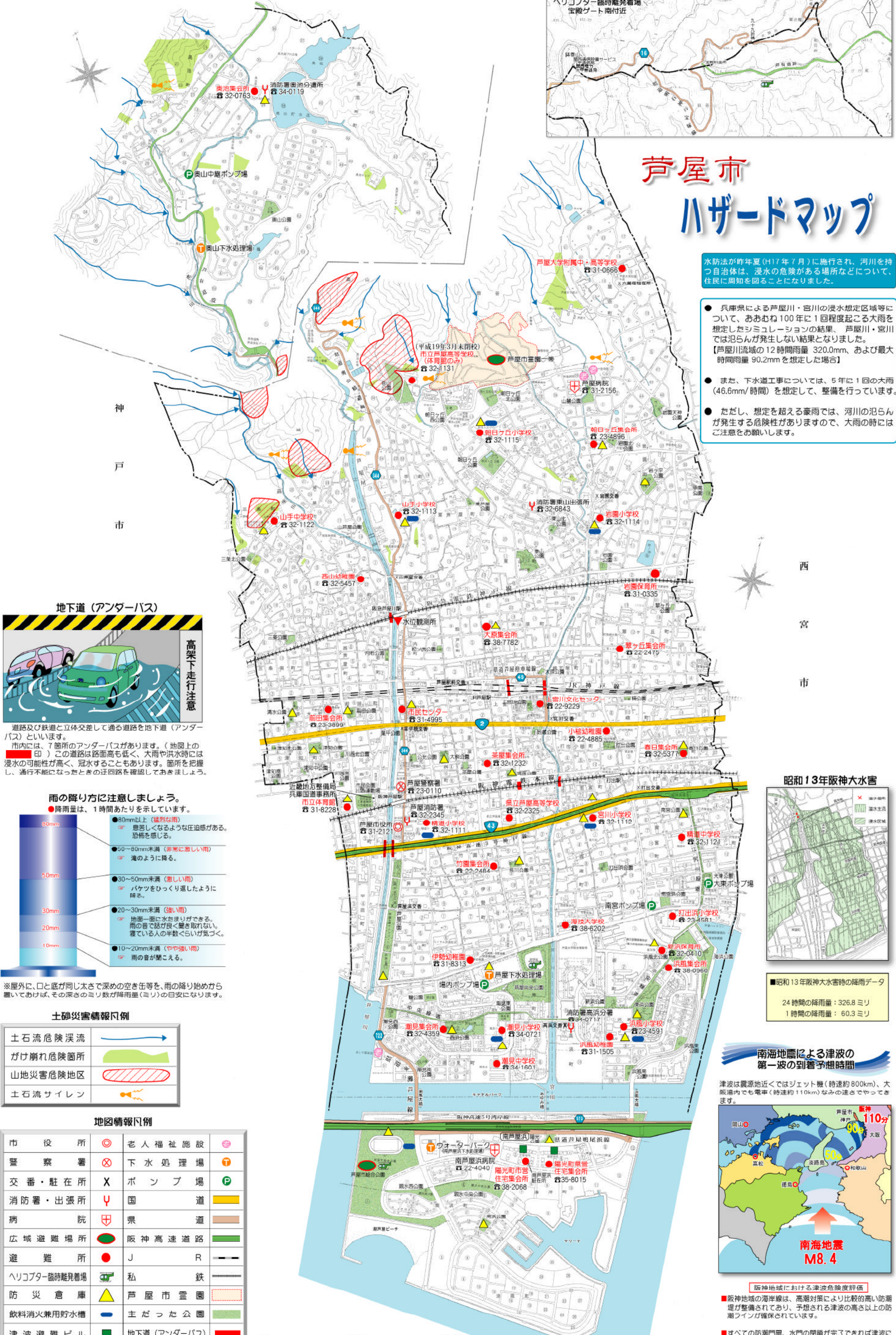


# 芦屋市 ハザードマップ

水防法が昨年夏(H17年7月)に施行され、河川を持つ自治体は、浸水の危険がある場所などについて、住民に周知を図ることになりました。

- 兵庫県による芦屋川・宮川の浸水想定区域等について、おおむね100年に1回程度起こる大雨を想定したシミュレーションの結果、芦屋川・宮川では氾らんが発生しない結果となりました。  
【芦屋川流域の12時間雨量 320.0mm、および最大時間雨量 90.2mmを想定した場合】
- また、下水道工事については、5年に1回の大雨(46.6mm/時間)を想定して、整備を行っています。
- ただし、想定を超える豪雨では、河川の氾らんが発生する危険性がありますので、大雨の時にはご注意をお願いします。



### 地下道(アンダーパス)

**高架下 走行注意**

道路及び鉄道と立体交差して通る道路を地下道(アンダーパス)といいます。  
市内には、7箇所のアンダーパスがあります。(地図上の印)この道路は路面高も低く、大雨や洪水時には浸水の可能性が高く、冠水することもあります。箇所を把握し、通行不能になったときの迂回路を確認しておきましょう。

### 雨の降り方に注意しましょう。

● 降雨量は、1時間あたりを示しています。

80mm以上	● 80mm以上(猛烈な雨) ☞ 息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。
50~80mm未満	● 50~80mm未満(非常に激しい雨) ☞ 滝のように降る。
30~50mm未満	● 30~50mm未満(激しい雨) ☞ バケツをひっくり返したように降る。
20~30mm未満	● 20~30mm未満(強い雨) ☞ 地面一面に水たまりができる。雨の音で話がよく聞けない。覆っている人の半数くらいが気づく。
10~20mm未満	● 10~20mm未満(やや強い雨) ☞ 雨の音が聞こえる。

※屋外に、口と底が同じ大きさで深めの空き缶等を、雨の降り始めから置いておけば、その深さのミリ数が降雨量(ミリ)の目安になります。

### 土砂災害情報凡例

土石流危険渓流	→
がけ崩れ危険箇所	▲
山地災害危険地区	■
土石流サイレン	📢

### 地図情報凡例

市役所	🏛️	老人福祉施設	👴👵
警察署	👮	下水処理場	🏭
交番・駐在所	X	ポンプ場	📍
消防署・出張所	🚒	国道	🛣️
病院	🏥	県道	🛣️
広域避難場所	🏠	阪神高速道路	🛣️
避難所	🏠	J	R
ヘリコプター臨時離着場	🚁	私鉄	🚆
防災倉庫	🏠	芦屋市霊園	🏘️
飲料消火兼用貯水槽	💧	主だった公園	🌳
津波避難ビル	🏢	地下道(アンダーパス)	🚧

### 昭和13年阪神大水害

■昭和13年阪神大水害時の降雨データ

24時間の降雨量：326.8ミリ  
1時間の降雨量：60.3ミリ

### 南海地震による津波の第一波の到着予想時間

津波は震源地近くではジェット機(時速約800km)、大阪圏内でも電車(時速約110km)などの速さでやってきます。

阪神地域における津波危険度評価

- 阪神地域の海岸線は、高潮対策により比較的高い防潮堤が整備されており、予想される津波の高さ以上の防潮機能が確保されています。
- すべての防潮門扉、水門の閉鎖が完了できれば津波による浸水は防止することが可能です。